

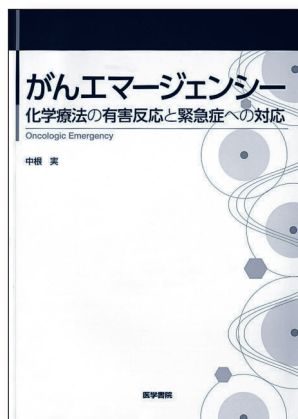
Book Selection



オープンダイアログとは何か

著・訳: 斎藤 環
発行: 医学書院
定価: 本体1,800円+税

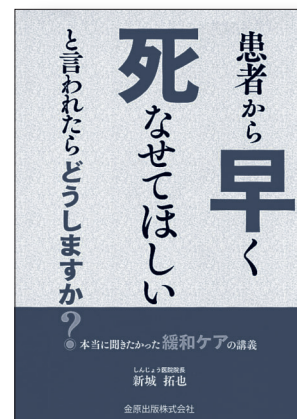
フィンランドの精神科病院で成果を挙げている「オープンダイアログ」。誰もが日常的に行っている「話す」という行為を、どう「開く」ことで効果を上げるのか? 患者、家族、医療チームで取り組むべきがん診療の場にも応用可能な手法だということに気付かされる。



がんエマージェンシー 化学療法の有害反応と緊急症への対応

著: 中根 実
発行: 医学書院
定価: 本体4,000円+税

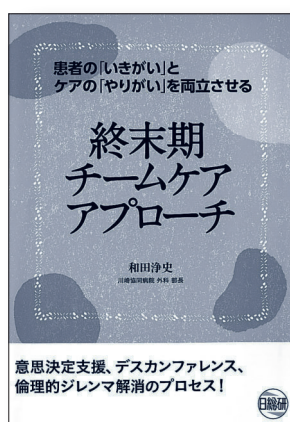
がんの進行や治療に伴い起こりうる有害事象は急速に重症化することがあり、的確な判断と迅速な対応が鍵になる。そうした事象の発生要因と機序、予防、発症後の対応までが図表を用いて明解にまとめられており、がん診療に携わる看護師、薬剤師、検査技師ら必読の書。



患者から早く死なせてほしいと言われたらどうしますか? 本当に聞きたかった緩和ケアの講義

著: 新城拓也
発行: 金原出版
定価: 本体2,800円+税

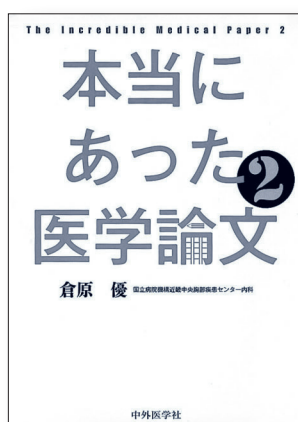
痛み、不眠、せん妄などがん終末期治療で患者が遭遇する苦悩や、余命告知、看取りといった局面を、医療者は、患者や家族とどう向き合っていくべきか。多くの文献を引用し、経験とエビデンスに基づき語られる講義は、医療者はもとより患者の家族にとっても道標となる。



終末期チームケアアプローチ 患者の「いきがい」とケアの「やりがい」を両立させる

著: 和田 浄史
発行: 日経研出版
定価: 本体2,778円+税

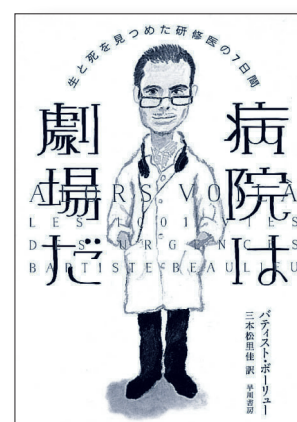
豊富な事例が写真付きで紹介され、とにかく圧巻。ケアミックス型の病院で緩和ケアチームの一員として働く医師が、終末期ケアで大切にしていること、チーム医療のあるべき姿、病院・在宅間の地域連携や看取り後のケアなどを詳述。思わず涙が出てしまうほどリアル。



本当にあった医学論文2

著: 倉原 優
発行: 中外医学社
定価: 本体2,000円+税

海外の一流誌「Lancet」に掲載された「ヘッドバンギングで脳出血」をはじめ、「ピリヤードのキューが頭に刺さった少年」「ネギを使って導尿?」「浮気の予防薬が存在する?」などまさに本当に医学論文?と思わせる75本は、前作同様どれも読みだしたら止まらない面白さ!



病院は劇場だ 生と死を見つめた研修医の7日間

著: バティスト・ボーリュー 訳: 三本松里佳
発行: 早川書房
定価: 本体1,700円+税

これってフランスの病院版「坊ちゃん」?! 新米フランス人医師が、研修先の病院での出来事や、個性的な患者や同僚たちとのやりとりをユーモアにブラックを交えて紹介。随所にロックやジャンソンの曲名が散りばめられ、まるで劇場で小粋な芝居を観ているかのよう。